

## ～先輩コーディネーターから～応募を考えられている方へ～

### 第 15 期コーディネーター 大杉治英さん

JOI15 期として、オハイオ州ケント州立大学に派遣されておりました大杉治英と申します。JOI の任期を終え、早いもので一年以上経ちましたが、オハイオでの経験は色褪せることなく、また戻れるものならと思出すことが沢山あります。何よりアメリカ文化に触れ、こちらが学ばせていただく事が沢山ありました。自分を通して日本文化を知ってもらい、少しでも興味を持ってもらえるのはこの上ない仕事だったと思います。



現地のプレスツアーにて

JOI プログラムのその後という点でお話させていただきます。JOI での経験を糧にこれまでのキャリアに戻られる方、さらに日本文化を広めることを深掘りされる方等、様々な方向へ行かれる方がいますが、どの方も前向きに自分の得意を活かしていける方向へ進まれていると感じています。帰国前には進路を悩むこともありますが、JOI の同期や先輩、ホストサイトの方々、ローラシアン協会や国際交流基金日米センターのスタッフ等、皆さん親身にご相談に乗っていただける方ばかりです。

私自身の話でいくと 11 月に行われるボストンキャリアフォーラムへ、大学院生と共に足を運んで就職活動の情報収集をしたり、転職エージェントへの登録を行ったりし、任期満了後の方向性を幅広くみていました。元々JOI の経験を国際協力の世界で活かしたいと考えてはいましたが、直接何に生きるのか分からず悶々としていた時期もあります。縁があり、独立行政法人国際協力機構（JICA）の企画調査員として内示を受けたのは、帰国後 3 ヶ月経ってからになります。

現在は、ウガンダ事務所でボランティア事業の教育分野を担当しております。案件形成からボランティアの受け入れ・研修業務やボランティアの活動支援、帰国時の対応業務等、多岐に渡ります。またウガンダでは、12 月 6 日に国際ボランティアデーの式典として、各国のボランティア機関と協力し、首都の大学でイベントを予定しております。教育関係の日本人ボランティアで活動紹介のブースを開くことを予定しており、発表内容を思案しております。先日は、プレスツアーとして、主要メディア 8 社とローカルメディア 6 社を招いて、在ウガンダ日本大使館と協働で、JICA ウガンダで実施しているプロジェクトの視察を 2 泊 3 日で実施しました。ウガンダ各省庁からの要人もゲストとして参加していただき、インパクトのあるイベントになったと思います。訪問先へのアテンドやメディアからのインタビュー等があり、日本の資金援助と人的援助による協力活動を大いにアピールできました。

JOI での活動とは異なり、黒子に徹しサポートする側に回る仕事が主になりますが、日本のプレゼンスを高めるんだという気概の下、日々業務に取り組んでおります。援助先の機関へ訪問する際には、JICA の事業内容やボランティア事業の方向性を話す機会があり、時にはタフな交渉もありますが、物怖じせずに、こちらの要求を英語で説明できるのは、JOI での経験が活かされているからだと思います。

2019 年 10 月 31 日